

参考資料

1. 幸田町地域公共交通会議 委員名簿
2. 幸田町地域公共交通会議 開催状況等
3. 用語集

1. 幸田町地域公共交通会議 委員名簿

【令和5年度 時点】

(順不同 敬称略)

区分	職名等	氏名
学識 経験者	名古屋大学 未来社会創造機構 モビリティ社会研究所 教授	森川 高行
	名城大学 理工学部 社会基盤デザイン工学科 教授	松本 幸正
交通 事業者等	愛知県タクシー協会岡崎支部 支部長(岡陸タクシー(株))	浅岡 林平
	幸田タクシー株式会社 代表取締役	葉賀 玲子
	株式会社レミックス 代表取締役	池田 広史
	町内交通事業者 運転手代表(株)レミックス)	三浦 節夫
住民・ 利用者	幸田町区長会 会長	内藤 節夫
	幸田町商工会 会長	神取 勇
	幸田町老人クラブ連合会 会長	大嶽 弘
	幸田町身体障害者福祉協会 会長	加藤 雅敏
	幸田町手をつなぐ育成会 会長	小山 興建
	幸田町聴覚障害者福祉協会 会長	高橋 恵子
行政	国土交通省 中部運輸局 愛知運輸支局 首席運輸企画専門官	宮川 高彰
	愛知県 都市・交通局交通対策課 担当課長	石屋 義道
	愛知県 西三河建設事務所 維持管理課長	久田 安信
	愛知県 岡崎警察署 交通課長	山口 幸治
	幸田町 副町長	大竹 広行

2. 幸田町地域公共交通会議 開催状況等

	日付	議題等
令和4年度 第1回 地域公共交通会議	令和4年 7月25日	【地域公共交通会議の立ち上げ】 ・幸田町都市交通マスタープランについて ・幸田町の公共交通の現状について
令和4年度 第2回 地域公共交通会議	令和5年 3月29日	【町地域公共交通計画について】 ・幸田町の公共交通について ・令和4年度第1回幸田町地域公共交通会議時の意見に対する回答 ・令和5年度幸田町地域公共交通会議事業計画(案)について ・令和5年度幸田町地域公共交通会議予算(案)について
令和5年度 第1回 地域公共交通会議	令和5年 7月26日	【計画策定に向けた検討方針】 ・現況～課題の整理 ・次期計画の構成案 ・計画策定に向けた検討方針
令和5年9月：【ニーズ調査】		
令和5年度 第2回 地域公共交通会議	令和5年 10月13日	【基本方針の検討】 ・ニーズ調査結果(速報) ・計画の基本方針
令和5年度 第3回 地域公共交通会議	令和6年 1月15日	【パブリックコメント前の計画案決議】 ・計画の基本目標 ・計画の主要施策 ・計画の評価指標 ・指摘事項への対応
令和6年2月：【パブリックコメント】		
令和5年度 第4回 地域公共交通会議	令和6年 3月19日	【最終とりまとめ】 ・パブリックコメントへの対応 ・次期計画の最終確認

3. 用語集

あ行	移動制約者	高齢者・障がい者よりは広い枠組みで捉えた、交通行動上、人の介助や機器を必要としたり、さまざまな移動の場面で困難を伴ったり、安全な移動に困難であったり、身体的苦痛を伴う等の制約を受ける人々の総称。	2-48 2-61 2-67 3-2 3-3 4-1 4-5 4-17 4-19 4-23
	エリアスポンサー	利用者が行きたいと思う施設や店舗名地が協賛金を払い、その収入を運営費に充てる仕組み。エリアスポンサーは、協賛金を払うことで自社施設等に停留所を設置でき、それにより集客が期待できる。	4-5
か行	貨客混載	貨物と旅客の輸送、運行を一緒に行う形態のこと。	2-50 4-12
	幸田町地域公共交通会議	市町村等が主宰し、地域住民、利用者、地方公共団体、地元のバス事業者、運転者の団体、運輸支局などで構成され、地域の実情やニーズに応じた適切な「地域公共交通」の形態及び運行ルート、運行回数、運賃など関係者が一同に会して議論し、合意形成を図るために、道路運送法及び地域公共交通の活性化及び再生に関する法律の規定に基づき設置しているもの。	1-1 5-2
	幸田町都市交通マスタープラン	幸田町の都市交通のあり方について長期的な視点から目標を掲げ、個別の課題に対する施策とその推進方策を示すもの。	目次 1-1 1-2 2-1 2-2 2-3 2-57 2-67 3-1 4-2 4-12

	コミュニティバス	主として地方公共団体が交通空白地域、交通不便地域の解消や高齢者等の外出促進を図るため、一定地域内を運行している地域密着型のバスのこと。 狭い道路でも運行可能なように車両の小型化を図ったり、運賃、ダイヤ、バス停の位置等を工夫したりする事例が多い。	1-1 2-2 2-3 2-19 2-21 2-24 2-41 2-61 4-4
か行	コロナ禍	新型コロナウイルス感染症の流行によって引き起こされる、さまざまな災い。感染症自体だけでなく、それを抑止するための行動制限、社会・経済活動の自粛や停滞、人々の疑心暗鬼なども、広く含む。	2-20 2-26 2-39 2-55 4-22
さ行	実証実験	新開発の製品・技術などを、実際の場面で使用し、実用化に向けての問題点を検証すること。	2-1 2-2 2-3 2-39 2-67 4-12
	自動運転	自動車の運転を自動的に行うこと運転支援システム(ドライバーの運転を支援するシステム)による走行と完全自動運転(無人運転)を指す。	1-1 2-1 2-2 2-3 2-49 2-52 2-67 3-3 4-12 4-22
	社会実験	地域に大きな影響を与える可能性が高い新しい施策の導入に先立ち、本格的に導入するか否かの判断材料を得るため、場所と期間を限定して施策を試行(実験)し、地域の方々や関係者が実際に施策を体験しながら施策の評価を行うもの。	2-28 2-34
	スーパーシティ	様々なデータを分野横断的に収集・整理し提供する「データ連携基盤」(都市 OS)を軸に、地域住民等に様々なサービスを提供し、住民福祉・利便向上を図る都市。	2-51

た行	第6次 幸田町総合計画	これからの幸田町をどのようなまちにしていけるのか、基本理念、目指すべき将来像を定め、その実現に向かっていくための指針となるまちづくりの計画。	1-2 2-58 2-59 3-1
	タクシー助成事業	日常生活における移動手段の確保が困難な高齢者や身体障がい者の方を対象とし、日常生活に必要な交通手段の確保及び経済的負担の軽減を行うため、タクシーを利用した際の利用料金の一部を補助するもの。	2-37 2-67 4-17
	地域公共交通の 活性化及び再生に 関する法律	地域公共交通の活性化及び再生に関する法律（平成19年法律第59号）は、地域の主体的な取組等によって「地域旅客運送サービスの持続可能な確保に資する地域公共交通の活性化及び再生」を推進するため、地域公共交通計画の作成やこれに基づき実施する事業等について定めた法律。	1-2 2-49 2-56
	デジタル庁	デジタル社会形成に関する内閣の事務を内閣官房とともに助け、行政事務の迅速かつ重点的な遂行をはかる行政組織。令和3年（2021）発足。	2-52
	デジタル プラットフォーム	IT技術やデータ等を用いてシステムやサービスを提供し、そのサービスを楽しむ場のこと。	2-52
	デマンド型交通	あらかじめ決まった時間帯に決まった停留所を回るのはなく、予約を入れて指定された時間に指定された場所へ送迎する交通サービス。	2-1 2-2 2-3 2-19 4-5
	電動車	電気を動力に使用する車の総称。電気自動車、燃料電池自動車、プラグインハイブリッド自動車、ハイブリッド自動車等が該当する。	2-53 2-63
	土地区画整理事業	土地区画整理法に基づき、公共施設の整備改善及び宅地の利用の増進を図るため、地権者から土地の提供（減歩）により行われる土地の区画形質の変更や公共施設の新設又は変更に関する事業。	2-20 4-2
	トリップ単位	人の移動は、「トリップ」という単位で計測する。例えば、通勤や買い物など、「一つの目的」を達成するために出発地から到着地まで移動すると1回とカウントする。	2-55

は行	バスロケーションシステム	GPS等を用いてバスの位置情報を収集し、バス停の表示板や携帯電話、パソコンに情報提供するシステム。	2-27 2-48 2-67 4-11 4-15
	バリアフリー	障がい者や高齢者の生活に不便な障害を取り除こうという考え方。道や床の段差をなくしたり、階段のかわりにゆるやかな坂道を作ったり、電卓や電話のボタンなどに触ればわかる印をつけたりするのがその例。	2-2 2-3 2-20 2-67 4-1 4-2 4-16 4-19 4-23
は行	フィーダー	交通網において、鉄道等の幹線と接続し、支線の役割を持って運行される交通手段のこと。	2-61 3-4 4-5
ま行	モビリティマネジメント	1人1人のモビリティ(移動)が、社会的にも個人的にも望ましい方向(過度な自動車利用から公共交通などを適切に利用するなど)に変化することを促す、コミュニケーションを中心とした交通政策。	2-3 3-3 4-1 4-13 4-19 4-23
や行	輸送資源	地域に存在する移動手段の総称。公共交通機関(鉄軌道、路線バス、旅客船、コミュニティバス、デマンド交通、乗用タクシー)だけでなく、自家用有償旅客運送、福祉輸送、スクールバス等も該当する。	2-62 4-7
	ユニバーサルデザイン	障がいの有無、年齢、性別、人種などにかかわらず多様な人々が利用しやすい都市や生活環境をデザインする考え方。	2-61 2-67

ABC	AI(エーアイ)	人工知能(Artificial Intelligence)の略。一般的には、人間のような知能を人工的に作りだしたソフトウェアやシステムのことを指す。	2-53
	ICカード (アイシーカード)	集積回路(Integrated Circuit)を内部に組み込んだカード。磁気カードよりも大容量のデータを記憶でき、かつ、セキュリティの向上を図ることができる。	2-38 2-67 4-10
	ICT(アイシーティー)	Information and Communication Technology(情報通信技術)の略。情報(information)や通信(communication)に関する技術の総称。	2-51 2-52 2-67 3-2 3-3 4-22
	ITS (アイティーエス)	高度道路交通システムのことであり、人と道路と自動車の間で情報の受発信を行い、道路交通が抱える事故や渋滞、環境対策など、様々な課題を解決するためのシステム。「Intelligent Transport Systems」の略。	2-52
	MaaS(マース)	バス、電車、タクシー、シェアサイクルといったいろいろな種類の交通サービスを、IT技術を活用して移動を1つのサービスとして統合する新しい考え方。「Mobility as a Service」の略。	1-1 2-3 2-49 2-53 2-54 2-67 3-3 4-12 4-22
	Society 5.0 (ソサエティ ゴーテンゼロ)	狩猟社会(Society 1.0)、農耕社会(Society 2.0)、工業社会(Society 3.0)、情報社会(Society 4.0)に続く、新たな社会を指すもので、第5期科学技術基本計画において我が国が目指すべき未来社会の姿として初めて提唱された。	2-52